

レーザー加工機市場の受注倍増を目指すための
革新的高機能デジタル生産システムの構築

株式会社タマリ工業

data

たまりこうぎょう

代表者役職名・氏名
：代表取締役・
下玉利淳也
設立年月日:昭和61年9月25日
住所
：〒445-0802
西尾市米津町
五郎田1-1
電話
：0563-57-1171
FAX
：0563-57-4590
URL
：http://www.
tamari.co.jp
E-Mail
：sales@tamari.co.jp
資本金
：1000万円
業種
：レーザー加工機の
設計・開発・製造など

より高性能なレーザー加工機の 開発に向けて、複合加工機などを導入。 効率が大幅に向上



「レーザー加工技術を追求する」と意気込む下玉利社長



高性能なレーザー加工機を次々と開発



補助金を利用して導入した立型マシニングセンター。部品の加工時間を大幅に短縮できた

他に先駆けて素早く開発

現在、ワークや製品の高機能化、部品形状の複雑化などから製造現場ではレーザー加工の需要が伸びている。これを背景に国内外のさまざまな機械メーカーがレーザー加工機を開発し、競争は激化している。そうした中で存在感を発揮し、注目を集めているのがタマリ工業だ。

同社は昭和61年に設立し、当初は溶接専用機的设计・製造をメインに手がけていた。平成14年に下玉利淳也社長が創業者から経営を引き継ぎ、当時は国内にほとんど存在しなかったレーザー加工機の市場拡大を予見して、その開発に素早く着手。そして、これまでに低出力から高出力まで幅広いレーザー加工機を生み出

してきた。性能の高さに加えソフト、ハードとも固有の技術で作り込んでいることが特徴だ。

同社の基本的なスタンスは、個々のユーザーにとって最適な製品を提供すること。レーザーを発生する発振器など関連装置・部品の知見を生かし、ユーザーそれぞれの加工部品、生産ラインに合わせた専用設計を行っているため「無駄がなく、よりコンパクト、低コストに製品を導入してもらえる」(下玉利社長)のが強みだ。また、ユーザーへの提案にあたっては社内でも徹底的に実験を繰り返している。

手作業から機械化への転換

こうした「顧客の真のベストパートナー」(同)を目指す取り組みにより、同社は順調に業績がアップ。いまや

レーザー加工機事業は同社の売上高の90%以上を占めるまでに成長している。平成26年にはレーザー加工機事業の強化に向けて近接する既存工場を移転し、規模を2倍に拡張した新本社工場も稼働した。

同社は常に研究を重ね、より高精度な加工ができるレーザー加工機を目指しているが「その開発にはレーザー加工機を構成する部品一つひとつが重要になる」(同)。その部品はこれまで、いわゆる職人の社員による手作業に頼る面が大きかった。レーザー加工機の生産量が増えていることもあり、手作業から機械化への転換が迫られていた。

そこで「平成27年度補正ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金」を活用し、立型マシニングセンター

(MC)と複合加工機、3次元CAD/CAM(コンピューター利用設計・製造)を導入した。

加工時間が従来の半分に

その結果、従来は3時間を要していた加工が半分の1.5時間に短縮でき、成果はすぐに出た。また、これまでフライス盤、旋盤の順番に加工していたケースでは、その都度ワークの脱着が必要だった。複合加工機の導入により、その手間がなくなり作業効率が向上し、加工精度もアップしたという。さらに、同社は設計を3次元CADで行うが、そのデータを変換することなく、そのままMCに入力できるため、プログラミング時間の短縮も果たせた。

また、補助金申請に際して「当社には何が不足し、課題なのかを洗い

出す必要があった。補助金を使うからには結果も求められる。これらの対応を進める上で社員が深く考え、それぞれのスキルアップにつながった」(同)。こうしたことも得られた大きな成果の一つだった。

顧客第一に徹しながら前進

同社は今後も補助金の成果を生か

しながら「顧客第一の信念に徹して、さらに高効率・高精度なレーザー加工技術・機械の開発にチャレンジし続けていく」(同)。そのプレーヤーとなるのは技術者だが、製造業においては人手不足が目下の課題。同社では高校や大学などの新卒者採用にも力を入れており、会社アピールを積極化している。



平成26年に稼働した新本社工場



複合加工機も導入、有効活用している